湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　専攻科　助産学専攻
名　前　今野　和穂
作成日　2026 年 4 月 20 日

1.　教育の責任

湘南医療大学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」にかなう助産師を育成することが助産学専攻科の准教授としての責任である。そのために、学士課程における看護学の知識技術を基盤として、産科医療の高度化・多様化に対応し、地域母子保健を支える実践力を身につけ、諸問題に対応できる実践家としての助産師の養成に努めることである。

2026 年度　担当科目

・基礎助産学Ⅱ（小児領域）（必修） 前期 8 回中 1 回
・ウィメンズヘルス （必修） 通年 15 回中 9 回
・助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）（必修） 前期　30 回中 28 回
・助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）（必修） 前期 30 回中 8 回
・助産診断・技術学Ⅲ（産褥・新生児期）（必修） 前期 15 回
・助産診断・技術学Ⅳ（乳幼児期）（必修） 通年 15 回中 1 回
・助産診断・技術学Ⅴ（ハイリスク）（必須） 通年 15 回中 5 回
・健康教育論 （必修） 後期 8 回中 7 回
・地域母子保健論 （必修） 後期 8 回
・地域母子保健活動論Ⅱ（専門職との協働・連携）（必修） 通年 15 回中 10 回
・助産学研究 （必修） 通年 15 回中 10 回
・助産学実習Ⅰ（継続）（必修） 通年　2 単位
・助産学実習Ⅱ （必修） 通年　8 単位
・助産学実習Ⅲ（地域母子保健）（必修） 通年　1 単位
・助産学実習Ⅳ（助産管理）（必修） 後期　1 単位

2.　私の理念・目的

1)　私の理念

私は、大学の理念、専攻科の教育目的に基づき、①学生がエビデンスに基づく知識を自ら獲得し、考える力を育てる、②臨地実習において知識と実践を結びつける、③看護の対象者を大切にする心を養うこと、また、④女性の生涯にわたる健康を支援することを目指す、を理念としている。

①　学生がエビデンスに基づく知識を自ら獲得し、考える力を育てる

医療の高度化・多様化に対応できる実践家として卒業後に社会に貢献していくためには、自分の置かれた状況の中で必要な知識をエビデンスレベルの高い情報源から適切に獲得し、得られた知識を活かして看護の対象者へどのように対応するかを考える力が必須である。

②　臨地実習において知識と実践を結びつける

学習によって得た基本的な妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的変化、新生児の子宮外環境への適応過程の変化が実際の場面ではどうなのか、正常な経過と照らし合わせて確認する

ことで、知識の定着と個別性への気づきにつながる。また、学習した知識が活用できた経験は助産・看護の楽しさを感じる機会になり、学習意欲の向上につながると考えられる。

③ 看護の対象者を大切にする

本学の理念である「個を敬愛す」にもつながることであるとともに、卒業後に助産師として活動していく上で最も大切にすべきことだと考える。生命の誕生に携わる者として、妊・産・褥婦、新生児一人一人を尊重し、この人のために何かをしたいと思う気持ちをもって助産行為を実践する助産師を育成したい。

④ 女性の生涯にわたる健康を支援することを目指す

リプロダクティブヘルス/ライツとライフサイクルの視点から女性の健康課題をとらえ、女性の生涯にわたり切れ目のない支援が実践できる助産師の育成を目指す。

2) 理念をもつに至った背景

私自身、学生時代に臨地実習によって自分の学んだ知識が活用できたとき、知識と実践が結びついたときに看護・助産の楽しさを実感することができた経験がある。そのため、臨地実習先では積極的にケア対象者に関わる機会やきっかけを提供し、状況に応じて必要な知識・適切な情報を入手し、それを基に必要な看護を考え、実施し、評価を通して自らのケアについて考えるという看護の基本的なプロセスを体感し、看護・助産の楽しさに気づいてもらいたいという思いをもった。また、私が学生時代に継続事例として分娩介助をさせていただいた方々とはいまだに交流がある。その時に生まれた子は既に親となって次の世代を育成しているが、それまでの成長を一緒に見守ることができたこと、新しい家族をつくっていく過程にかかわることができていることは私にとって大きな喜びとなっている。そのため、学生達にも自分の関わった方、一人一人を大切にする心を忘れない助産師になってもらいたいと願っている。

私は総合周産期病院で勤務していたことからハイリスクの妊・産・褥婦様と関わる機会が多かった。女性の晩婚化により高年出産が増加し、40 代での出産も珍しくなくなっていた。その中で望んだ時に妊娠をすることが難しい女性や出産後から間を開けずに更年期に至り、育児と仕事の両立の中で更年期症状に苦悩する女性に出会うことも少なくなかった。助産師として、女性の生涯にわたる継続した支援の必要性を感じるようになった。

3. 教育の方法・戦略

① 学生がエビデンスに基づく知識を自ら獲得し、考える力を育てる

担当科目である助産診断・技術学Ⅰの中で、妊娠期のマイナートラブルについて機序と対処行動を調べる個人課題を与え、その際にエビデンスの提示を求めた。また、調べた内容をもとに、妊婦から訴えがあった際の返答を口語で記載させた。そのうえで、授業の中で個人課題での知識を活用できるような事例を与え（添付資料1）、4～5人程度の小グループワークで他者の物事の調べ方、課題の取り組み方、考える視点の違いを知り、各自の考えをブラッシュアップする機会を持たせた。その後グループワークでまとめた内容を発表することで、更なる知識や考え方の発展につなげた。毎回の授業で扱う事例を変えながら、小グループのメンバー

を変えて取り組んでもらった。また、グループワークの発表方法も実際の場面を想定したロールプレイの実施をさせるなど少しずつ実践の場面での知識の活用を想定した形式となるように工夫した。同じ事例妊婦への説明や対応であっても、声のトーンや話すスピード、説明の仕方などに違いがある。発表後はお互いの発表を聴いた際の気づきについて意見交換させ、妊婦への対応の仕方や保健指導方法について自ら考える機会をもった。毎回の授業の中で、デブリーフィングを丁寧に行うことを心がけた。

② 臨地実習において知識と実践を結びつける

妊・産・褥婦、新生児を受け持たせていただき助産ケアを実施する中で、学生各自が知識と実践の統合に努めている。私は臨床指導者、スタッフの皆様と協力し、学生がより多くの経験を持てるよう調整に努めている。また、事前に学習してきた内容・知識を確認し、実際の場面で対象者はどうであったのかを学生に語らせる機会をもつことや、指導者の実施したケア内容を後から振り返りこの時指導者はどのようにアセスメントしていたと考えられるか、そう考えた根拠となる知識は何かを確認して実践の場でのアセスメントを深める促しを繰り返し実施している。

③ 看護の対象者を大切にする

私自身が関わらせていただく妊・産・褥婦、新生児へ敬意を払い、大切な一人として対応する態度を見せること、スタッフの皆様がそのようにしている場面で学生にそのことを気づかせることを意識的に実践している。分娩介助させていただいた産婦へのバースレビューの中でも産婦が大切にされたと感じながら過ごせたことの意味を考えさせる声かけを学生に対しておこなっている。また、分娩介助させていただいた方の入院中退院までの毎日のケア、2 週間健診、1 か月健診に関わることで、自分の実施した助産がその後どのように影響していくのかを知るとともに、一人の女性の人生のプロセスを支える者としての助産師の役割について考えさせ、人を大切にする心の育成に努めている。

④ 女性の生涯にわたる健康を支援することを目指す

ウィメンズヘルスの授業を通して、思春期から性成熟期、更年期、老年期へと女性のライフステージに応じた健康問題について考え助産師としてどのようなケア、活動ができるかを考える機会をもつことで、切れ目のない支援のできる助産師の育成に努めている。

4. 学習成果

助産診断・技術学 I の授業を通し、学習してきた知識・技術・コミュニケーションスキルを活用し、助産師が妊婦健康診査を実施する演習を行った。妊婦役へは健診時に質問する内容を提示し、子宮底・腹囲の測定や胎児心音聴取などの妊婦健康診査項目実施後の助産師からの健診結果のフィードバック時に質問をさせた。助産師役へは今まで学修してきた授業での知識と経験をもとに妊婦の質問に返答する機会を設けた。どのような質問をされるかは事前にまったく知らされていない中で、多くの学生は適切に質問に対応することができていた。終了後のデブリーフィングにおいても積極的に意見交換ができ、助産師としてよかった点を伝えあうことや、妊婦を尊重した妊婦健診の実践に向けた改善点が見いだせていた。今までの講義、

課題への取り組みやグループワークでの学びが、形として表現されたことは学生にとって成長を実感する機会となっていた。また、臨地実習で妊婦と関わる際の自信にもつながっていた。

健康教育論では、本学保健医療学部看護学科 1 年生を主対象に、助産学専攻学生による健康教育を実施している。学生は、看護学生へのインタビューによるニーズ調査から、健康教育プログラムの作成、宣伝、実施、評価を行うことで、青年期にある男女の健康課題やプレコンセプションケアについても学びを深めている。また、集団教育の企画・運営についても学修できている。健康教育実施後には、学生と交流の時間をもち、助産師という職業についての紹介や将来助産師になることを目指す学部生へのアドバイスを行っている。学部学生に助産師について語ることで専門職としての魅力を再確認するとともに、学部と専攻科の交流および学部生の進路相談の一助を担うことができている。

5. 改善のための努力

・ 授業説明について、時間を有効的に使用してスムーズにグループワークを進めるために、初回のオリエンテーション資料に、各回のグループワークの進め方についてのイメージを提示する。
・ 卒業学校によって学習の仕方、エビデンスの確認方法にバラツキがあることから、学生の学習方法や状況を確認する機会を設ける。
・ 実習期間中に個別面接を取り入れ、各学生が自己の成長に気づく機会を持つとともに、課題の明確化を促す。

6. 今後の目標

＜短期目標＞

・ 教育成果の評価を明らかにする

科目講義終了後に授業内容に関するアンケート調査を実施、実習終了後に実習を終えたうえで、実習中に役立った実習前授業内容や課題についての意見を調査する。

＜長期目標＞

・ 高い学生満足度および学習成果が得られる授業を展開する

教育成果の評価の結果を次年度の授業構成、内容に活用することで、授業改善のための工夫や自己研鑽を続け、最新の知識や技術を導入し、魅力ある授業を展開できるようにする。

【添付資料】

資料1：助産診断・技術学Ⅰ課題、授業内グループワーク事例の一部

資料 1

事前課題

助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）　課題①

１．妊娠期に出現しやすい以下の症状について、**原因・機序**、**ケア（予防・対応など）**、**起こりやすい時期**について、教科書や参考書などを用いて調べてまとめて下さい。その際に使用した**資料（エビデンス）の出典**を記載してください。

①貧血　②腰背部痛　③便秘

２．１で学習した内容を活用し、大学で事務職として働いている 24 歳初妊婦の方から以下の質問をされた時のあなたの**返答・説明**を実際に話す時の言葉で書いてください。

① お医者さんに、今日の検査で貧血がありましたって言われました。助産師さんから、貧血についてのお話を聞くように言われたのですが。貧血について教えてください。
② 赤ちゃんが大きくなってお腹が目立つようになってきたのはうれしいけど、だんだん腰が痛くなってきました。これって私だけですか？これから赤ちゃんがもっと大きくなっていったら、もっとひどくなるんですか？私大丈夫かなあ。
③ 最近便秘なんです。妊娠する前は毎日お通じがあったのに、妊娠してからは時々お通じが出ない日とかもあるようになって。それが、お腹が大きくなってきたら、２～３日出ない日も増えてきて。大丈夫ですか？どうしたらいいですかね。

グループワーク事例の一部

お医者さんに、今日の検査で貧血がありましたって言われました。助産師さんから、貧血についてのお話を聞くように言われたのですが。貧血について教えてください。

横浜A子さん　(28歳)　1G0P初産婦
既婚、　夫B作さん（31歳）会社員
職業：大学事務職
身長：160㎝　非妊時体重：55kg

妊娠27週　　Hb:10.1g/dl　Hct:32.0%

資料 1

最近便秘なんです。妊娠する前は毎日お通じがあったのに、妊娠してからは時々お通じが出ない日とかもあるようになって。
それが、お腹が大きくなってきたら、２～３日出ない日も増えてきて。
大丈夫ですか？どうしたらいいですかね。

横浜A子さん　(28歳)　１G0P初産婦
既婚、　夫B作さん（31歳）会社員
職業：大学事務職
身長：160㎝　非妊時体重：55kg

＊　妊娠週数の違いで、指導内容に工夫はありますか？
①　妊娠25週での指導
②　妊娠36週での指導